

令和3年度 京都市立醍醐小学校 学校教育目標・学校経営方針

学校教育目標

「次代と未来を創る 醍醐の子を育てる」
～自ら学び、共に支え高め合う子ども～

「次代と未来を創る」とは、確かな学力を身につけることで、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会を創造していくことと考えます。そのために、子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、自分とは異なる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていくための基盤・土台となる「生きる力」を育むことが大切です。

その実現に向けて「自ら学び、共に支え高め合う子ども」の育成に努めます。そして、自分の夢や希望を持つことができる。また、夢や希望を選択することができる子を育てます。

学校経営方針

1 わかる・できる・楽しい学校づくり

- ・「わかった」「できた」という楽しさを実感できる授業づくり
- ・友達と過ごす楽しさ、みんなでできたという体験、人と人との関わりが楽しいと思える経験ができるようにする

2 一人一人の子どもに寄り添う学校づくり

- ・多くの目（全教職員）で一人一人の子どもを見守る
- ・子ども一人一人の思いを聞き、その子どもに応じた道筋を示す
- ・子ども一人一人に居場所があり、自己有用感がもてるようとする

3 心も体も安心安全に過ごせる学校づくり

- ・子どもたちが安心して過ごせる学級づくり
- ・子どもの命を守りきる
- ・子どもの教育環境を整える

＜目指す学校像＞ 活気に満ちた学校

1 笑顔あふれる楽しい学校

- ・笑顔は心のバロメーター
- ・子どもの笑顔が見られる取り組みを
- ・醍醐小学校が好きと言える子に

2 子どもに夢や希望をあたえる学校

- ・将来展望をもつ
- ・「確かな学力」を身につける

3 安心安全で地域に開かれた学校

- ・社会に開かれた学校づくり
- ・地域との連携 「子どもは地域の宝」

<目指す子ども像> 醍醐ブランドを自負し、醍醐プライドをもてる子ども

1 目標に向かってあきらめない子ども

「しんどいときがのびるとき」

- ・手が届きそうな目標をもつことができる
- ・目標達成のための見通しがもてる
- ・目標達成のために努力・継続ができる
- ・振り返りをして、次の目標がたてられる

⇒自分を更新していくことで、自尊感情を育てる

2 感謝や思いやりの心をもつ子ども

「人権を大切にする子に」

- ・人は一人では生きていけない 素直に「ありがとう」「ごめんなさい」が言える
- ・自他の命を大切にする 困っている友達に「大丈夫？手伝おうか？」と言える
- ・あいさつができる

3 たくましく活動できる子ども

「心も体も強い子に」

- ・基本的な生活習慣を身につけている
- ・ルールを守って活動している
- ・進んで運動している
- ・心の悩みを話すことができる

<目指す教職員像> 協働する教職員集団

1 チーム力を発揮できる教職員

- ・子どものために「やるときはやる。やるべきことをやる。」
- ・相互理解に努める
- ・決して一人にしない みんなで達成の喜びを味わう

2 子どもにかかわりきる教職員

- ・キーワードは「徹底」
- ・「しんどいとき」にはしんどいと助けを求める
- ・子どもの最後の砦となる

3 保護者・地域から信頼される教職員

- ・子どもの教育に携わっている自覚と責任ある行動
- ・常に学び続ける
- ・鋭い人権感覚をもち、実践する力を持つ